

(様式2)新規評価シート

林務部 森林づくり推進課

事業名	水源地域等保安林整備		路河川名等	—		
事業毎の通番	4	市町村名	小谷村	箇所名(ふりがな)	土谷川(つちやがわ)	
事業概要	事業目的	平成26年11月22日の神城断層地震により小谷村土谷川流域の道路や農業用水沿線において山地に起因する災害が多発した。このため、これら道路などの災害復旧事業と連携し再度の災害や被害の拡大を防止するため山腹工を実施すると共に、周辺の森林を整備し、災害に強い森林づくりを推進したい。				
	しあわせ信州創造プランにおける位置付け	4-1地域防災力の向上	事業実施の根拠法令等	森林法		
	関連する事業、計画等	県道奉納中土(停)線・林道東山線・村道奉納線・農業用水土谷堰施設災害復旧事業				
	保全対象・範囲 受益対象・範囲	県道奉納中土(停)線500m、林道東山線500m、村道奉納線500m、農業用水土谷堰500m、人家85戸(奉納温泉ほか)				
	着手年度	平成27年度	事業期間	5年間	事業費(千円)	財源内訳(千円)
	完成年度(見込み)	平成31年度	費用対効果	3.22	国庫	その他 県債 一般財源
	全体事業内容(主な工種)	山腹工5.45ha、森林整備36.6ha		960,000	480,000	432,000 48,000
	年度事業内容(主な工種)	山腹工0.10ha		43,030	21,515	19,363 2,152
	事業効果	直接的効果(定量的・定性的)	県道奉納中土(停)線、林道東山線、村道奉納線、農業用水土谷堰の損壊防止			
		間接的効果(定量的・定性的)	県道奉納中土(停)線、村道奉納線、林道東山線の通行確保、土谷川流域の農業生産の維持継続			
評価の視点	必要性	○人家戸数:	85戸(奉納温泉ほか)	評価	A	
	重要性	○公共施設数:	県道奉納中土(停)線、村道奉納線ほか	評価	A	
		○災害時要援護者関連施設の有無:	なし			
		○保安林・林業用施設:	保安林あり(69%)、林道東山線			
	効率性	○過去の災害履歴:	平成26年11月22日神城断層地震災	評価	B	
		○交通遮断による地域経済への影響:	県道奉納中土(停)線、村道奉納線ほか			
○地域防災計画上の位置付け:		特別警戒区域として位置付けあり				
緊急性	○費用便益比(B/C):	3.22	評価	A		
	○事業期間:	平成27~31年度				
	○工法等の比較検討:	地すべり性崩壊の工法比較検討など				
計画熟度	○流域の総合調整:	姫川砂防事務所所管の砂防指定地と調整済	評価	B		
	○流域の地形、地質:	第三紀礫岩・砂岩・泥岩 地すべり地形				
	○平均渓床勾配(平均山腹勾配):	山腹30°以上				
部意見	○下流の堰堤等の整備状況:	最寄の保全対象に対しての施設なし	評価結果	総合評価		
	○山地災害危険地区危険度・土砂災害防止法指定区域:	特別警戒区域(奉納)ほか				
○事業情報の共有:	小谷村などと施工分担して復旧計画策定	行政改革課意見	重要性、緊急性が高い。	○	A	
○地域の取り組み:	地元要望にもとづき小谷村から要請あり					
○地域の合意形成:	地元の事業についての合意あり					
○住民との協働:	用水路の地元パトロールの一環として点検の実施					
○H26年11月神城断層地震に起因する斜面崩壊により道路や農業用水が被災した。これらのライフラインを速やかに復旧するため、各災害復旧事業と連携し、早急に対策を行う必要がある。						

位置図・平面図

①事業実施に至る歴史的経緯・社会的背景
平成26年11月22日の神城断層地震による県道奉納中土(停)線、林道東山線、村道奉納線、農業用水土谷堰の被災。

②地域からの要望経緯及び地域の関わり
地元要望にもとづき、小谷村から要請されている。

③事業説明等の経緯
上記県道奉納中土(停)線、林道東山線、村道奉納線、農業用水土谷堰の災害復旧事業との施工分担協議などを通じ説明を行った。

④他事業・プロジェクトとの整合、関連
県道奉納中土(停)線・林道東山線・村道奉納線・農業用水土谷堰施設災害復旧事業。

⑤自然環境・生活環境への影響と配慮
奉納温泉から国道148号線方面への通行を確保する。

⑥地域活性化への影響と配慮
農業用水を保全農業生産活動の維持継続、奉納温泉への観光客の確保を図る。

⑦その他

事業概要説明図表

事業周辺環境

事業代表地点の緯度経度

北緯:N 36° 48' 39"

東経:E 137° 57' 06"